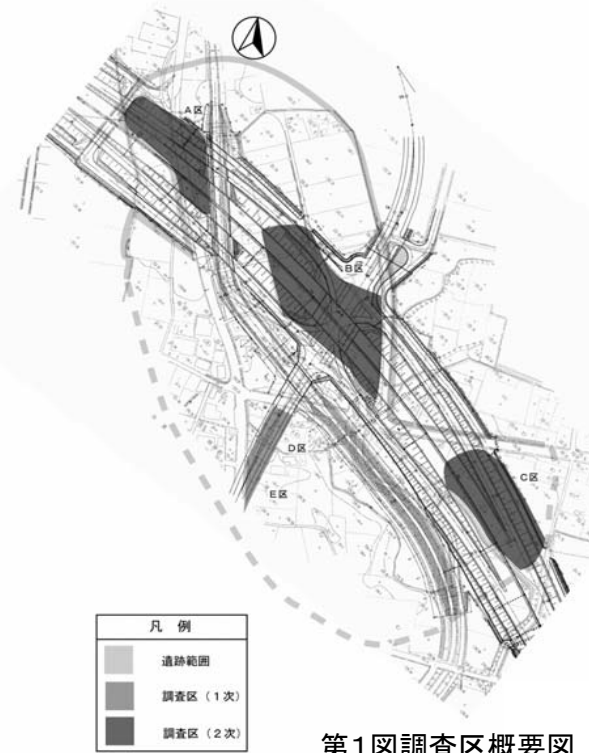


檜原遺跡(第1次)発掘調査 調査説明資料

2006年9月15日(金曜日)
財団法人山形県埋蔵文化財センター

調査要綱	檜原(ひのきばら)遺跡
遺跡名	平成8年度登録
遺跡番号	南陽市西落合字明神前・東原
所在地	山形県
調査委託者	主要地方道米沢南陽白鷹線改良工事
調査原因	1, 275㎡
調査面積	平成18年8月21日～9月22日
現地調査	遺跡種別
遺跡種別	時 代
時 代	遺 構
遺 構	遺 物
遺 物	調査担当者
調査担当者	調査協力



第1図調査区概要図

1 調査の概要

檜原遺跡は南陽市南部の沖郷地区に所在します。今回の調査は県道の改良工事に伴う緊急発掘調査として行なわれました。

檜原遺跡は、平成8年度に一般国道113号線改築事業の計画路線内を県教育委員会が踏査して詳細分布調査を実施した結果、本遺跡が確認され登録されました。その後、平成17年度に国道に交差する県道路線内の試掘調査がなされ、県教育委員会と県土木部との協議が行なわれました。工事にかかる部分の発掘調査について(財)山形県埋蔵文化財センターが委託を受け、記録保存を目的とした緊急発掘調査を実施することとなりました。

遺跡は吉野川と織機川に形成された扇状地扇中央部にあたり、標高は223mを測ります。上無川の自然堤防上の微高地になり、遺跡の堆積層には、砂やシルト・泥炭質の粘土などが堆積していました。

今回の調査は、県道路線範囲の1,275㎡を対象に8月21日より実施しました。調査区中央に東西にある水路と水道管理設部分を残し、北側をD区、南側をE区とし、重機による表土の除去→遺構検出→精査・記録という工程で調査を進めました。

2 検出した遺構

見つかった遺構には中世から近代までの建物跡や溝跡・柱跡・土坑などがあります。

D区からは幅1mほどの溝跡(SD53)と土坑・多数のピットが検出されました。溝跡は用水路を挟んでE区につながっていくようです。

E区からは南側を中心に柱跡と思われるピット群がまとまって検出されました。幾つかは建物を構成する物があります。また南北に伸びD区に繋がりにL字に屈曲する溝跡(SD53)や東西に掘りこまれた溝跡(SD50, SD58, SD181)がみられます。特にE区北側には幅10mのSD58が検出されました。これらの大きな溝跡については検出した面積や出土した遺物も少なく、その性格などははっきりしていません。

確認した建物跡の時期は溝跡内出土の陶器などから鎌倉時代頃の建物の可能性があります。

また、以前住宅地になっていたこともあり、近代以降のゴミ捨て穴などがみついています。

3 出土した遺物

檜原遺跡の第1次調査で出土した遺物は整理箱で3箱で主に溝跡の堆積土層内から数多く出土しました。時期的には古代から近世・近代にいたる遺物がみられました。

古代の遺物としては須恵器や土師器が出土しました。甕や坏の破片で、全体の形がわかるものはありませんでした。中世の遺物としては、瓷器系陶器(甕)の破片や白磁皿の破片が出土しています。近世の遺物は17～18世紀の皿や碗・鉢などの破片が出土しています。

その他、時期ははっきりしませんが石製円盤や基石・磨石などが出土しています。

4 まとめ

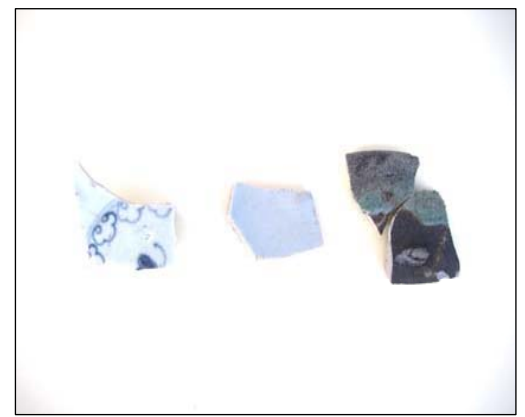
檜原遺跡の第1次調査地点は古代～近代にかけての遺構や遺物が見つかりました。E区で確認した建物跡は土坑や溝跡から出土した陶磁器などから中世から近世にかけての建物跡と考えられます。また、東西や南北に伸びる溝跡は建物を区画したり囲んだものと推測でき、建物等の居住域は調査区の周辺に広がっているものと考えられます。出土した陶磁器類から各地から持ち込まれたものがあり、当時の生活の様子を伺える資料を得ることができました。



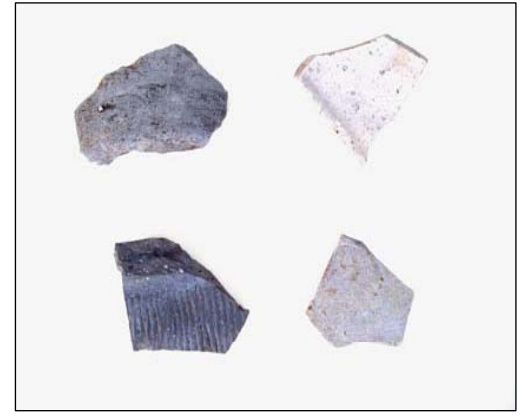
調査区全景(遺構検出時)



中世陶器(甕)



中世から近世の陶磁器(皿)



須恵器



調査開始鍬入れ式



遺構検出作業



遺構精査・記録作業

